

働かない自由

日本キリスト教団箕面教会牧師

家山 華子

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。

第六の日である。

天地万物は完成された。第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なさった。この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された。

(創世記 1 章 31 節-2 章 3 節)

「働かない自由」という言葉を聞いたとき、みなさんはどう感じられるでしょうか。「働かない自由?そんなのあたりまえやん」という人もいるでしょう。わたし自身はどうかと言えば「働かない自由がある」と思いつつ、あちらにもこちらにも良い人でいようとする傾向があるので、気がつくといつもスケジュール帳が一杯になってしまいます。しかし、だんだんと年齢を重ねるにつれて、若い頃のように無理がきかなくなってきました。自分の体をメンテナンスしながらなんとかやっているという感じです。ですから、敢えて大げさな表現を使って「働かない自由はそこにあるのか?」と自分に問いかけているのが現状です。みなさんは、大学を卒業したら、社会に出て、何らかの仕事につく人が多いと思います。時々「大学生の今のうちに遊んでおきなよ」という言葉を聴くことがあります。しかし、それは「就職したら遊べない」という意味にも聞こえてしまいます。就職してからも、遊ぶことはできますし、むしろ休む時間は必要なのです。今日は、積極的な意味での「働かない自由」「休む自由」ということを、聖書の言葉から考えてみたいと願っています。

神は 7 日目に創造の業を離れて休まれた

先ほど読んで頂いた聖書箇所は、天地創造物語の一部分です。天地創造物語は、「初めに、神は天地を創造された」という言葉から始まります。これは、歴史的な事実を物語っているわけではありません。この世界を、もう一つのメガネで見る見方を教えています。わたしたちは、日常生活の中で、日々色々なことを考えながら生きています。様々な課題に直面して、悩んだり、もがいたりしながらも、一步一步、前へと進んでいます。そのわたしたちの日常をはるかに越える聖書の視点は、わたしたちの外側から、本質的な意味を投げかけるのです。

「神は、お造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」天にあるものも、地上にあるものも、動物も植物も人間も、みんな素晴らしい作品に出来上がったと、神はご自分の仕事を振り返って、満足しています。この天地創造物語は、神が自分の仕事をど

や顔で自己アピールしている話、というわけではありません。それなら、6 日間でどれだけのことをしたかを伝えて、最後は「休んだ」だけでいいのです。しかし、聖書では、最後に神が休まれた「第 7 の日」が、3 回も繰り返して強調されています。「神は御自分の仕事を離れ、安息なされた」という言葉も 2 回繰り返して強調されています。これを見ると、まるで 7 日目に休むために 6 日間仕事していたかのようです。聖書では、7 日目に神が休まれたことも含めて、その全体を神の創造の働きとして考えるのです。

「休むこと」も含めて「働くこと」

ある人が、以前こんなことを言っていました。「自分は、何か大きなプレッシャーのある仕事をするときには、その後の日程に旅行の計画を入れて、先にお楽しみを用意しておく。馬の前ににんじんをぶら下げて走らせるように、楽しいことがその先にあれば、その目標に向かって力が湧いてくるのよ」と。それを聴いて以来、わたしも、友だちとご飯に行く計画など、楽しい予定と仕事の予定をセットで考えるようになりました。今日は暑いので、このチャペル・アワーが終わった後、美味しいアイスでも買いに行こうかなと思っています。ほんの些細なことですが、そういう楽しみが、力をくれることがあります。

わたしが子どもの頃「24 時間戦えますか？ジャパニーズ、ビジネスマン」という栄養ドリンクの CM が流行っていました。高度経済成長期の日本のビジネスマンを象徴するような CM です。会社の中で機械の歯車のように、休む時間なく働き続ける人たちに、栄養ドリンクを飲んで頑張ってくださいと、商品を売り込む戦略です。今は、そんな会社はブラック企業と言われます。しかし、今もわたしたちの社会の色々なところで、休みなく働いている人がいるのです。「働き方改革」ということが言われていますが、働き方というより、一人一人の生きる価値観を変えないと、働き方を変えるのはなかなか難しいのではないかと考えています。わたしが出会ったドイツ人やブラジル人は、1 ヶ月間休暇を取って海外旅行に行くのは当たり前のことだと言っていました。日本の社会の中では、1 ヶ月まるまる休みを取ることは、なかなか難しいかもしれませんが、少なくとも「24 時間戦えますか？」という時代から考えると、働くことに対する価値観は変わってきていますし、これからも変えていく必要があると思います。

聖書には、7 日目に神は休んだだけでなく「離れた」と、わざわざ書かれています。ここから考えると、今いる場所を離れることが大切なのです。自分の体を休ませたり周りの人との関係を大切にしたり、自然の中に身を置いたりしながら、リラックスした時間を過ごすことは、仕事と同じくらい大切なことです。そう言っている今のわたしは、なかなかそのような時間を持てていないので、今の自分が一番それを求めているのかもしれません。できれば、スケジュール帳もスマホもお休みにして、自然の中に身を置いて深呼吸したいものです。そうすると、自分を客観的に見ることができますし、新しい力が湧いてきます。自然の美しさ、大きさを目にするだけで、自分の存在の小ささを改めて知り、人間を越える大きなものの手にすべてをゆだねるしかないという思いにさせられます。

今日この後一緒に賛美する曲「造られたものは」（『讚美歌 21』223 番）は、太陽、月、

星、空、海、大地など美しい自然を一つ一つ思いながら「ハレルヤ」と賛美します。日本のアーティストが作る曲にも、時々「ハレルヤ」という歌詞が出て来ます。この「ハレルヤ」という言葉は、本来は「神を賛美せよ」という意味です。すべての命の源である神は、キリストを死から命へと引き上げられる力の神です。この神を賛美する「ハレルヤ」という言葉は、暗闇を打ち破る突破力のある言葉です。

今、世界の各地で、戦争や紛争によって大地が破壊されています。人々の命が奪われ、その日の食べる物も満足に与えられない人々が大勢います。そのような状況に、心を痛めつつ、日々祈っています。しかし、毎日のようにそのようなニュースを見聞きするわたしたちの心も疲れてきてしまいます。このような時だからこそ、人間を越える存在が、この世界を良い方向へと向かわせてくださることに信頼して「ハレルヤ」と賛美したいのです。この世界のすべてを「極めて良い」ものとしてくださる神に信頼して、共に「ハレルヤ」と賛美しつつ、今ある目の前のことにも、大きな広い心で向き合うことができればと願います。